

I 専門分野の成長戦略

林業分野

林業分野の取り組みの概要

① 産業振興計画のこれまでの取り組みによる成果と課題

県土の84パーセントを占める森林の豊富な資源を余すことなく活用するため、大型製材工場の整備などの加工体制の強化や木質バイオマス発電施設の整備、TOSAZAIセンターを中心とした外商強化など、川下側の取り組みを進めてきたことにより、県内の原木需要は大きく高まりました。これに合わせて、川上側では施業地を集約した森の工場の推進や高性能林業機械の導入などにより、原木生産の拡大に取り組んできました。

この結果、県内の原木生産量は、平成22年の40万4千立方メートルから令和5年には70万8千立方メートルへと大幅に増加しました。また、木材・木製品製造業出荷額等も、平成22年の150億円から令和4年には266億円へと、大幅に増加しています。

一方、少子高齢化等により住宅分野における新設住宅着工戸数が減少する中、これまであまり木材が使われてこなかった非住宅分野での木材利用の拡大が急務となっています。SDGsやカーボンニュートラル実現の観点から、持続可能な資源として木材の活用を望む企業は増加しており、今後は、再造林など環境に配慮した森林由来の木材という新たな価値を加えることにより産地としての競争力を強化し、県産材の外商などに取り組むことが必要です。

② 第5期計画ver.2の取り組み

第5期計画では「山で若者が働く、イノベーション創発型の国産材産地」を目指す姿として、若者や女性などの活躍、そして森林資源の再生産と県産材の付加価値向上を実現するため、次の4つの戦略の柱により取り組みを進めます。

柱1 森林資源の再生産の促進

これまで集約化を進め整備してきた森の工場のインフラ等を最大限に活用し、皆伐・再造林を含めて森林資源の再生産を促進します。また、ICTやデジタル技術、先端林業機械を活用するスマート林業への転換を進め、先端技術をフル活用した林業を推進することにより、さらなる生産性の向上や原木生産の拡大など、林業収支のプラス転換に向けた取り組みを進めます。

柱2 木材産業のイノベーション

森林資源の成熟により増加する大径材の有効活用に向け、大径材利用戦略に基づき、施設整備や加工技術の向上に向けた取り組みを進めます。また、木材加工施設整備への支援等により、高品質な製材品を持続的に供給できる体制づくりに取り組みます。さらに、管理が行き届かず、公益的機能の低下が懸念される放置竹林等を有効活用し、竹資源の利用拡大に向けた取り組みを進めます。

柱3 木材利用の拡大

SDGsなど時代のニーズに対応するため、再造林の実施など環境に配慮した森林由来という新たな価値を加えた土佐材を認証する制度の構築を進めます。また、住宅への木材利用に加え、非住宅建築物の木造化・木質化に向けて、高知県環境不動産等の建築促進に取り組めます。さらに、関西圏における外商活動の強化に向けて、万博でつながった非住宅建築向け構造材のサプライチェーンを活用した供給・提案体制の強化を進めます。

柱4 多様な担い手の育成・確保

女性等の就業の後押しが期待できるスマート林業の取り組みや若者の価値観を取り込んだ労働環境の改善を支援するとともに、林業就業者の処遇改善に向けて技能評価によるキャリアパスの導入を支援することにより、若者や女性等が活躍するための環境づくりを進めます。

～山で若者が働く、イノベーション創発型の国産材産地～

投資指目

- ①川上
- ②川中
- ③川下
- ④担い手

林業適地を中心としてICTやデジタル技術、先端林業機械を活用するスマート林業への転換が進み、伐採後の再造林をはじめ森林資源の再生産につながる事業活動が活発に行われている。

原木を安定的に調達する体制が整備され、非住宅分野をはじめ新たな需要への高品質な製材品の供給力が向上している。

住宅への木材利用に加え、非住宅建築物の木造化・木質化に向けた取り組みを強化することにより県産材利用が拡大している。

デジタル化された森林情報の活用をはじめスマート林業を推進し、若者や女性等の多様な人材がいきいきと活躍している。

原木生産量

新 木材・木製品製造業出荷額等
製材品出荷量

分野を代表する目標

出発点	(R4)	73.6万円	⇒	現状	(R5)	70.8万円	⇒	R7	80.3万円	⇒	4年後	(R9)	85万円	⇒	10年後	(R15)	85万円
出発点	(R3)	249億円	⇒	現状	(R4)	266億円	⇒	R7	227億円	⇒	4年後	(R9)	255億円	⇒	10年後	(R15)	281億円
出発点	(R3)	21.8万円	⇒	現状	(R5)	22.3万円	⇒	R7	21.8万円	⇒	4年後	(R9)	25.9万円	⇒	10年後	(R15)	29.6万円

上

柱1 森林資源の再生産の促進

(1) 林業適地への集中投資

- ①林業適地の拡大
- ②林道等の開設（改良）の促進
- ③新たな森の工場の拡大



(2) 林業収支のプラス転換

- ①新たな森の工場等における生産性向上につながるイノベーションの推進
 - ②低コスト造林の推進
 - ③林地残材の利用拡大
 - ④成長の優れた苗木等の生産強化
 - ⑤野生鳥獣による食害対策の強化
 - ⑥再造林の推進に回った連携体制の強化

(3) 多様な健全な森林への誘導

- ### ①多間伐による長伐期化や針広混交林化の促進

手担

柱4 多様な担い手の育成・確保

(1) ターゲットマーケティングによる就業促進に向けた取り組みの強化

- 【新】** ①趣味に関する専門誌への広告掲載や動画配信など多生希望者等に向けた情報発信の実施
【城】 ②女性等をターゲットにした「うちフォレストスクール」の開催や就業相談への対応などの林業労働力確保支援センターと連携した就業促進に向けた取り組みの展開

(2) 高度な技術を有する人材の育成

- 【新】①林業大学でのトイカー導入による研修環境の充実や高校生向けのオンライン出前授業など、入校生の確保に向けた取り組みの展開
②林業事業体における森林クラウドでのデジタル情報活用やスマート林業の推進に必要な人材の育成を支援

(3) 魅力ある職場づくりの推進

- ① 事業戦略の実践や経営セミナー、起業等に関する勉強会の実施により林業事業体の経営改善に向けた取り組みを推進
- ② キャリアパスの導入など若者等のニーズに合った取り組み等への支援により林業事業体の労働環境改善の取り組みを拡大
- ③ ドローンや電子測量機器の操作研修の実施等、女性就業の後押しが期待できるスマート林業の取り組みを推進

母三

柱2 木材産業のイノベーション

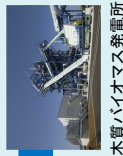
(1) 大径材の利用促進

- ① 大径材利用戦略の更新と加工技術の普及
 ・ 素材生産業者の大径材への対応状況調査
 ・ 大径材加工技術の普及
 ② 大径材を利用した製品の開発等
 ③ 大径材加工施設の整備への支援



(2) 需要に応じた製材品の供給体制の整備

- ①川上・川中・川下間の連携の強化
・コーディネーターを通じて情報連携の円滑化や、事業者間の
原料供給のマッチング
- ②製材加工の共同化・協業化等の促進
による加工体制の強化
- ③JAS認証の取得や施設整備への支援
による製材品の高品質化
- ④製材工場の環境整備
(就業者向け作業環境整備等)
- ⑤高品質な製材品(JAS)
- 



(3) 森の資源を余すことなく活用

- ①木質バイオマス発電の推進
②竹資源の利用拡大

**先端技術をつる活用し、
イノベーション創発型の林業・木材産業を展開！！**

高度人材の育成



魅力を



57



外国人材の言語に配慮した取組

新規就業

定着

林業分野で掲げる目標一覧

◆分野全体の目標

原木生産量 出発点(R4):73.6万m3 ⇒ 現状(R5):70.8万m3 ⇒ R7目標:80.3万m3 ⇒ 4年後(R9)の目標:85万m3 ⇒ 10年後(R15)の目標:85万m3 木材・木製品製造業出荷額等 出発点(R3):249億円 ⇒ 現状(R4):266億円 ⇒ R7目標:227億円 ⇒ 4年後(R9)の目標:255億円 ⇒ 10年後(R15)の目標:281億円 製材品出荷量 出発点(R3):21.8万m3 ⇒ 現状(R5):22.3万m3 ⇒ R7目標:21.8万m3 ⇒ 4年後(R9)の目標:25.9万m3 ⇒ 10年後(R15)の目標:29.6万m3
--

第5期計画 各産業分野の 取り組みの柱	戦略の種類	第5期計画 戦略目標	出発点	現状値	R7年度 到達目標	4年後(R9) 目標値	重点施策 該当
1 森林資源の再生 産の促進	1 構造転換型戦略	森の工場の原木生産量(年間)	12.6万m3 (R4)	13.7万m3 (R5)	20.7万m3	26.5万m3	○
		民有林の再造林面積(年間)	342ha (R4)	294ha (R5)	552ha	690ha	○
2 木材産業のイノ ベーション	2 地域産業スケ ルアップ型	乾燥材の出荷量(年間)	87千m3 (R4)	110千m3 (R5)	109千m3	126千m3	○
		JAS機械等級区分構造材の出荷量(年間)	11千m3 (R4)	12千m3 (R5)	15千m3	25千m3	○
		県産製材品の出荷量(年間)	152千m3 (R4)	153千m3 (R5)	156千m3	197千m3	
3 木材利用の拡大	2 地域産業スケ ルアップ型	県内における非住宅木造建築物の棟数(年間)	106棟 (R4)	89棟 (R6)	113棟	121棟	○
		県外製品市場等への県産製材品の出荷量(年間)	103千m3 (R4推計)	115千m3 (R5推計)	117千m3	121千m3	○
4 多様な担い手の 育成・確保	5 人材起点型戦略	林業就業者数(年度末現在)	1,593人 (R3)	1,600人 (R5)	1,690人	1,690人	○
		[現場] 新規就業者数(年間)	142人 (R3)	68人 (R5)	185人	200人	○
		うち15～34歳女性新規就業者数	2人 (R3)	1人 (R5)	3人	5人	
		[事務] 新規就業者数(年間)	7人 (R4)	14人 (R5)	7人	11人	
		うち15～34歳女性新規就業者数	3人 (R4)	2人 (R5)	3人	5人	
		10人以上を雇用する法人数(年度末現在)	22法人 (R3)	20法人 (R5)	26法人	30法人	
		事業戦略実践企業のうち前年度比+3%の限界利益額を達成した企業の割合(年間)	58% (R4)	60% (R5)	80%	100%	
		森林クラウド利用者数(年度末現在)	— (R5)	51事業体 (R6)	60事業体	75事業体	

分野		林業				
各産業分野の取り組みの柱						
No.	戦略目標	出発点	直近値	4年後目標 (R6)	これまでの取り組みと成果	課題
1	森の工場の原木生産量(年間) 【モニタリング方法】 ・県補助事業の四半期毎の業績及び、四半期毎に関係機関等に関き取り調査を行い、原木生産量を確認	12.6万m3 (R4)	13.7万m3 (R5)	26.5万m3 (R6)	1 作業システムの改善による生産性の向上 ・森林組合支援WGによる新たな作業システムの導入 ・R2～R3:7組合(H29以降の累計:全23組合) ・スマート林業技術研修会参加事業体 ・R2～R5:65事業体 ・機械化や自動化の要証活動 ⇒原木生産量 H30:64.6万m3→R5:70.8万m3 ・研修会の参加人数:89名 2 森の工場の拡大・推進 ・森の工場の承認面積(累計) H30:72,799ha→R5:88,042ha(R5目標:84,300ha) ⇒森の工場における輸出開伐の労働生産性 H30:3.59m3/人日→R5:4.36m3/人日	1 林業適地への集中投資 ・作業システムでの改善等を推進してきたが、生産性の伸びは低位 ・間伐を中心とした森の工場は拡大しており、そのインフラ等を活用し、原木のさらなる安定供給と確実な再造林が必要 2 林業収支のプラス転換 ・スマート林業を促進した生産性の持続的な向上による林業収支のプラス転換と原木生産量の拡大 ・造林コストの軽減に向けた低密度植栽等が拡大しており、この流れを加速化していくことが必要 ・再造林に係る初期費用の軽減に資する基金の取り組みが開始されており、多様な関係者の協力の拡大が必要 3 多様で健全な森林への誘導 ・間伐等の繰り返しによる長伐期化や針広混交林化など、多様な森づくりが必要
2	民有林の再造林面積(年間) 【モニタリング方法】 ・県補助事業の四半期毎の業績及び、四半期毎に関係機関等に関き取り調査を行い、再造林面積を確認	342ha (R4)	294ha (R5)	690ha (R6)	1 再造林の促進 ・地域ぐるみでの再造林に向けた意見交換会の参加者 R5:94名 ・各地域における増産・再造林推進協議会を通じた再造林推進員の登録者数 R元:40名→R5:79名 ・再造林推進員による提案活動面積 R元:51ha→R5:191ha ・再造林推進員の提案活動による同意面積 R元:17ha→R5:123ha ・市町村による追加支援(端上げ) H30:14市町村→R5:25市町村 ・ミニチュア採種園の拡充 H30:2箇所→R5:3箇所 ・川上及び川中の事業者による「仁淀川町森林保全基金」が設立(R4年12月) ・新たな造林専門事業体の設立 R5:5事業体 ・県全域の事業者による「高知県再造林推進会議」が設立(R5年10月)	1 林業適地への集中投資【R6～R9】 ①林業適地の拡大 ・より効率化できる森林の抽出 ②林道等の開設(改良)の促進 ・10トン積トラック運等の整備 ③新たな森の工場の拡大 ・間伐、皆伐・再造林の一体的促進(再造林を前提とした皆伐等への支援等) ・森林経営管理制度の活用等市町村と連携した集約化 ・低コスト造林(伐採→再造林)を実践し、施策データ等の収集・分析などを行う新たな森の工場のモデル地区を支援【R7】 2 林業収支のプラス転換【R6～R9】 ①新たな森の工場等における生産性向上につながるイノベーションの推進 ・再造林を前提とした高性能林業機械の導入支援 ・デジタル化等スマート林業の推進(省力化・軽労化につながる先端林業機械の要証) ②低コスト造林の推進 ・低密度植栽・隔年下刈への支援 ③林地賃材の利用拡大 ・林地賃材機出への支援を見直し、より広範囲からの集荷を促進するとともに、機出しに必要な機械の導入への支援を拡充【R7】 ④成長の盛れた苗木等の生産強化 ・挿し木苗に適した品種の特定 ⑤野生鳥獣による危害対策の強化 ・鳥獣害防止ネットの点検等への支援 ⑥再造林の推進に向けた連携体制の強化 ・再造林基金団体の広域化などの仕組みづくり等 ・県全域での再造林基金の設置に向けた制度設計や合意形成への協力、円滑な運営に向けた支援の拡充【R7】 3 多様で健全な森林への誘導【R6～R9】 ①多間伐による長伐期化や針広混交林化の促進 ・間伐等支援の重点化 ⇒別図<林01>参照(P34)
					主なアウトプット目標(KPI)	<森の工場承認面積(累計)> 88,042ha (R5) ↓ 100,141ha (R9)

分野		林業			
各産業分野の取り組みの柱		木材産業のイノベーション			
No.	戦略目標	出発点	直近値	4年後 目標 (R6)	これまでの取り組みと成果
1	乾燥材の出荷量(年間) 【モニタリング方法】 ・製材事業者(4社)の採取により 四半期の進捗状況を確認 ・製材統計(国統計:年次)で 実績を確認	87千m3 (R4)	110千m3 (R5)	126千m3 (R6)	1 高品質な製材品等の供給体制の整備 ・木材乾燥機の導入 R3～R5: 14台 ⇒人工乾燥材の出荷量 H30: 75千m3→R5: 10千m3 ・JAS認証 H30: 14工場→R6: 20工場 ⇒JAS機械等級区分構造材の出荷量 H30: 11千m3→R5: 12千m3 ・製材加工の共同化・協業化等の促進 しまんと製材工場の稼働(R4) ・SCMフォーラム全体研修会等の開催 R3～R6参加者: 280名 2 製材事業者の生産・経営力の強化 ・事業戦略の策定 R2: 3事業者 ・事業戦略の進捗支援 R2: 8事業者、R3: 9事業者、R4: 6事業者、R5: 4事業者 3 プラットフォームづくり等による地産・外産体制の強化 ・(一社)木材協会が取りまとめる格付データにより進捗を確認 ・(一社)全国木材検査・研究協会が取りまとめる格付実績を確認
2	JAS機械等級区分構造材の出荷量(年間) 【モニタリング方法】 ・(一社)木材協会が取りまとめる格付データにより進捗を確認 ・(一社)全国木材検査・研究協会が取りまとめる格付実績を確認	11千m3 (R4)	12千m3 (R5)	25千m3 (R6)	1 高品質な製材品等の供給体制の整備 ・木材乾燥機の導入 R3～R5: 14台 ⇒人工乾燥材の出荷量 H30: 75千m3→R5: 10千m3 ・JAS認証 H30: 14工場→R6: 20工場 ⇒JAS機械等級区分構造材の出荷量 H30: 11千m3→R5: 12千m3 ・製材加工の共同化・協業化等の促進 しまんと製材工場の稼働(R4) ・SCMフォーラム全体研修会等の開催 R3～R6参加者: 280名 2 製材事業者の生産・経営力の強化 ・事業戦略の策定 R2: 3事業者 ・事業戦略の進捗支援 R2: 8事業者、R3: 9事業者、R4: 6事業者、R5: 4事業者 3 プラットフォームづくり等による地産・外産体制の強化 ・(一社)木材協会が取りまとめる格付データにより進捗を確認 ・(一社)全国木材検査・研究協会が取りまとめる格付実績を確認
3	県産製材品の出荷量(年間) 【モニタリング方法】 ・製材統計(国統計:月次)の 値から進捗状況を推計(国統 計:年次)で実績を確認	152千m3 (R4)	153千m3 (R5)	197千m3 (R6)	1 高品質な製材品等の供給体制の整備 ・木材乾燥機の導入 R3～R5: 14台 ⇒人工乾燥材の出荷量 H30: 75千m3→R5: 10千m3 ・JAS認証 H30: 14工場→R6: 20工場 ⇒JAS機械等級区分構造材の出荷量 H30: 11千m3→R5: 12千m3 ・製材加工の共同化・協業化等の促進 しまんと製材工場の稼働(R4) ・SCMフォーラム全体研修会等の開催 R3～R6参加者: 280名 2 製材事業者の生産・経営力の強化 ・事業戦略の策定 R2: 3事業者 ・事業戦略の進捗支援 R2: 8事業者、R3: 9事業者、R4: 6事業者、R5: 4事業者 3 プラットフォームづくり等による地産・外産体制の強化 ・(一社)木材協会が取りまとめる格付データにより進捗を確認 ・(一社)全国木材検査・研究協会が取りまとめる格付実績を確認
4	-	-	-	-	1 高品質な製材品等の供給体制の整備 ・木材乾燥機の導入 R3～R5: 14台 ⇒人工乾燥材の出荷量 H30: 75千m3→R5: 10千m3 ・JAS認証 H30: 14工場→R6: 20工場 ⇒JAS機械等級区分構造材の出荷量 H30: 11千m3→R5: 12千m3 ・製材加工の共同化・協業化等の促進 しまんと製材工場の稼働(R4) ・SCMフォーラム全体研修会等の開催 R3～R6参加者: 280名 2 製材事業者の生産・経営力の強化 ・事業戦略の策定 R2: 3事業者 ・事業戦略の進捗支援 R2: 8事業者、R3: 9事業者、R4: 6事業者、R5: 4事業者 3 プラットフォームづくり等による地産・外産体制の強化 ・(一社)木材協会が取りまとめる格付データにより進捗を確認 ・(一社)全国木材検査・研究協会が取りまとめる格付実績を確認
5	-	-	-	-	1 高品質な製材品等の供給体制の整備 ・木材乾燥機の導入 R3～R5: 14台 ⇒人工乾燥材の出荷量 H30: 75千m3→R5: 10千m3 ・JAS認証 H30: 14工場→R6: 20工場 ⇒JAS機械等級区分構造材の出荷量 H30: 11千m3→R5: 12千m3 ・製材加工の共同化・協業化等の促進 しまんと製材工場の稼働(R4) ・SCMフォーラム全体研修会等の開催 R3～R6参加者: 280名 2 製材事業者の生産・経営力の強化 ・事業戦略の策定 R2: 3事業者 ・事業戦略の進捗支援 R2: 8事業者、R3: 9事業者、R4: 6事業者、R5: 4事業者 3 プラットフォームづくり等による地産・外産体制の強化 ・(一社)木材協会が取りまとめる格付データにより進捗を確認 ・(一社)全国木材検査・研究協会が取りまとめる格付実績を確認

分野		林業			
各産業分野の取り組みの柱		木材利用の拡大			
No.	戦略目標	出発点	直近値	4年後 目標 (R6)	これまでの取り組みと成果
1	県内における非住宅木造建築物の棟数(年間) 【モニタリング方法】 ・年次及び四半期データは土交通省「建築物着工統計調査」を確認	106棟 (R4)	89棟 (R6)	121棟 (R6)	1 県内における住宅・非住宅建築物への木材利用の拡大 ・SDGsをはじめ環境への関心が高まる中、持続可能性の担保された木材活用を望む企業が増加しており、再造林の実施など環境に配慮した森林由来の木材であることを、情報提供する仕組みが必要 ・県内では、CLT技術セミナーの開催や設計支援等により、CLTを使用した建築物は増加してきたが、非住宅建築物の木造率は低位であり、着工数を増やすことが重要 ・CLT建築物 R5時点: 28棟 →R6時点: 57棟(うち公共27棟) ・非住宅の木造率(床面積) R元: 15.4%→R6: 18.5% 着工数 R元: 108棟→R6: 89棟 【県外】 ・県外では、住宅分野を中心とした営業活動等により、土佐材パートナー企業登録数や流通拠点は増加している一方、今後、拡大が見込まれる非住宅分野に土佐材を利用する事業者の開拓が必要 ・流通拠点の設置 R元: 159棟(うち非住宅1) →R6: 187棟(うち非住宅3) ・新たな需要創出として室内空間への木材利用の拡大が必要だが、対応できる事業者や製品が少なくない
2	県外製品市場等への県産製材品の出荷量(年間) 【モニタリング方法】 ・四半期ごとの主要な製材事業者等へのヒアリングと、製材統計(国統計: 月次の値から運搬状況を確認	103千m3 (R4) (年間推計値)	115千m3 (R6) (年間推計値)	121千m3 (R6)	1 県外における販路開拓 ・土佐材パートナー企業の登録数 R6: 167社 ・土佐材パートナー企業の土佐材住宅等の支援棟数 R6: 187棟、28社 ・流通拠点の設置 R6: 28社 ・流通拠点での県産材取扱量 R6: 11千m3
課題		取り組み内容 (R6～R9)			
1 環境に配慮した新たな木材流通の促進 ・SDGsをはじめ環境への関心が高まる中、持続可能性の担保された木材活用を望む企業が増加しており、再造林の実施など環境に配慮した森林由来の木材であることを、情報提供する仕組みが必要 ・県内では、CLT技術セミナーの開催や設計支援等により、CLTを使用した建築物は増加してきたが、非住宅建築物の木造率は低位であり、着工数を増やすことが重要 ・CLT建築物 R5時点: 28棟 →R6時点: 57棟(うち公共27棟) ・非住宅の木造率(床面積) R元: 15.4%→R6: 18.5% 着工数 R元: 108棟→R6: 89棟 【県外】 ・県外では、住宅分野を中心とした営業活動等により、土佐材パートナー企業登録数や流通拠点は増加している一方、今後、拡大が見込まれる非住宅分野に土佐材を利用する事業者の開拓が必要 ・流通拠点の設置 R元: 159棟(うち非住宅1) →R6: 187棟(うち非住宅3) ・新たな需要創出として室内空間への木材利用の拡大が必要だが、対応できる事業者や製品が少なくない		1 環境に配慮した新たな木材流通の促進 ①環境に配慮した森林由来の土佐材を認証する仕組みの構築 ・土佐材認証制度及びデジタル情報管理システムの構築【R6～R8】 2 非住宅建築物等への木材利用の拡大 ①建築設計に関するアドバイザーの派遣や勉強会の開催と併せ、環境不動産認定基準の見直しにより、木材利用の拡大と環境負荷の低減につながる高知環境不動産の建築を促進【R6～R9】 ②CLT等を使用した非住宅木造建築物の建築拡大に向けた構造及び完成検査研修への施主の参加拡大による木材利用に関する理解の醸成【R6～R9】 ③万博でつながった非住宅建築向け構造材のサプライチェーンを活用した供給・提案体制の強化や友好・姉妹都市関係にある県外自治体への営業強化【R6～R9】 ④消費地における室内空間への県産材利用事例を活用した提案とプロユーザーとの製品開発【R6～R9】 ⑤海外への販売促進(有望なエリアにおける販路開拓)【R6～R9】 ⇒別図<林03>参照(P36)			
主なアウトプット目標(KPI)		<土佐材認証制度への参加事業者数(累計)> └ (R6) └ 216事業者 (R9) <県補助事業による設計・整備への支援件数(累計)> └ (R6) └ 20棟 (R9)			

分野		林業						
多様な担い手の育成・確保								
No.	戦略目標	出発点	直近値	4年後目標 (R6)	これまでの取り組みと成果	課題	取り組み内容 (R6～R9)	主なアウトプット 目標 (KPI)
1	林業就業者数(年度末現在) 【モニタリング方法】 ・林業労働力調査により年次データを把握	1,593人 (R3)	1,600人 (R5)	1,690人 (R6)	1. きめ細かな担い手の育成・確保の強化 ①移住希望者に向けた各種相談会の開催 (R2～) 就業相談者数(年度計) R2: 149人, R3: 134人, R4: 133人, R5: 125人 ②女性就業者の確保 (R2～) ・女性限定の「こころのレスパイトスクール」の開催 (R2～) ・女性向けの林業大学校特別講座の開催 (R2～) 女性就業相談者数(年度計) R2: 34人, R3: 30人, R4: 34人, R5: 32人 ③小規模林業の推進 ・小規模林業推進協議会の開催 (R2～) 協議会の委員数 R2: 570人, R3: 581人, R4: 589人, R5: 567人 2. 林業大学校の充実・強化 ①学校訪問やオープンキャンパスの開催、年間を通じた広報活動の実施 (R2～) ②労働センターと連携したインターンシップの実施や就業ガイダンスによる就業支援 (R2～) ③デジタル機器を導入した実習環境の整備 (R4～) 林業大学校研修生の入校者数(年度計) R2: 45人, R3: 44人, R4: 39人, R5: 45人 林業大学校研修修了生の県内林業事業体就職者数(年度計) R2: 26人, R3: 21人, R4: 20人, R5: 18人 3. スマート林業の推進に向けた環境整備 ①森林クラウドの導入 (R3～R5) 森林クラウド登録数 60事業体 ②森林クラウドや先進機器を活用した実証活動や取り組みの普及活動(R4～R5) 参加事業体 21事業体 4. 事業体の経営基盤の強化 ①事業戦略の策定による経営改善の推進 (R2～) 事業戦略の実践事業体数(累計) 17事業体 ②林業事業体における経営基盤の強化と就労環境の改善 ・労働力確保支援センターによる指導・助言 雇用改善計画認定事業体 R2: 85事業体, R3: 82事業体, R4: 83事業体 R5: 81事業体	1. 就業促進に向けた取り組み ・女性の就業促進に向けた、林業の魅力やモデルケースなどの情報発信 ・地域おこし協力隊のBなど小規模な林業を担うグループにおいては、森林資源を活用した事業の実施により、一定の収入が確保できる新たな働き方が必要 2. 人材育成に向けた取り組み ・スマート林業など新たな技術に対応できる人材の育成 ・車道林の推進に必要な造林・育林に関する知識と技術を有する技術者の育成 3. 魅力ある職場づくりに向けた取り組み ・女性の就業促進の後押しが期待できるスマート林業の実践などの取り組みの拡大 ・若者や女性視点での労働環境改善の取り組みの推進 ・林業事業体による経営や労働環境の改善に向けた取り組みの拡大	1. ターゲットマーケティングによる就業促進に向けた取り組み ①女性等をターゲットにした「こころのレスパイトスクール」の開催や就業相談への対応などの林業労働力確保センターと連携した林業での就業促進に向けた取り組みの展開(R6～R9) ②森林資源を活用した事業の実施を支援し、半林半農といった新しい働き方の提案により地域おこし協力隊等の新たな担い手を確保(R6～R9) ③林業就業と趣味移住をテーマにした情報発信の実施(R7) 2. 高度な技術を有する人材の育成 ①林業事業体における、森林クラウドでのデジタル情報の活用やスマート林業の推進に必要な人材の育成を支援(R6～R9) ②林業大学校において、原木生産に加え、再造林の推進に必要な知識と現場経験を有するための研修の実施(R6～R9) ③若者(特に女性)をターゲットにした林業大学校の研修環境の改善(R7) 3. 魅力ある職場づくりの推進 ①ドローン等の女性が扱いやすい機器の操作研修の開催に加え、林業現場でのスマート林業の実践に向けた林業事業体への個別支援(R6～R9) ②更衣室の設置や就業規則の見直しなど、女性等が働きやすい環境整備への支援(R6～R9) ③事業戦略の策定や女性が働きやすい職場づくり等について学ぶ経営セミナーの開催(R6～R9) ④キャリアパスの導入など、若者等のニーズに対応した就業環境改善の支援(R7～R9) ⇒別図<林04>参照(P37)	<就業相談者数> 247人 (R5) ↓ 470人 (R9)
2	【現場】新規就業者数(年間) ・林業労働力調査により年次データを把握	142人 (R3)	68人 (R5)	200人 (R6)				<労働環境改善に取り組む林業事業体数> 17事業体 (R5) ↓ 60事業体 (R9)
3	【事務】新規就業者数(年間) 【モニタリング方法】 ・森林組合一斉調査等により年次データを把握	7人 (R4)	14人 (R5)	11人 (R6)				
4	10人以上を雇用する法人数 (累計) 【モニタリング方法】 ・林業労働力調査により年次データを把握			30法人 (R6)				
5	事業戦略実践企業のうち前年度比+3%の増収利益額を達成した企業の割合(年間) 【モニタリング方法】 ・企業への聞き取り等により年次データを把握	22法人 (R3)	20法人 (R5)					
6	森林クラウド利用者数(年度末現在) 【モニタリング方法】 ・森林クラウドの造林補助金申請システム利用による申請事業体数(四半期毎)	58% (R4)	60% (R5)	100% (R6)	1. 森林クラウドの導入 ・森林クラウドの本格運用開始 (R5.4月～) ・森林クラウドにユーザー登録数 60事業体 (R6.3月) ・森林クラウドの機能拡充により申請・届出機能や計画策定に必要なシステムを搭載 (R5年度末) ・QGIS及びタブレット・ドローン研修会の開催 R2～R5: 65事業体参加 ・森林クラウドや先進機器を活用した実証活動 R4～R5: 4事業体	1. 森林クラウドの活用促進 ・森林クラウドの整備やデジタル機器の導入支援により、デジタル情報活用環境は一定整いつつあるが、データや機器を効率的かつ効果的に扱うスキルについては事業体間で差があり、人材育成支援の継続が必要 ・事業体が必要とするデジタル情報活用技術は画一的なものではなく、事業形態や実装機器、習熟度などにより各事業体毎で様々であり、ニーズに応じた支援を行うことが必要	1. 森林クラウドの活用促進 ・森林整備の計画作成等の業務を効率化する機能の操作研修の開催やヘルプデスクなどにより林業事業体の森林クラウドの活用に必要な人材育成を支援(R6～R9) ・ドローンや電子測量機器等の操作研修会の開催に加え、林業現場での実践に向けた林業事業体への個別支援によりスマート林業の取り組みを推進(R6～R9)	

5期計画（令和9年度）の目指す姿

- 林業適地を中心としてICTやデジタル技術、先端林業機械を活用するスマート林業への転換が進み、伐採後の再造林をはじめ森林資源の再生産につながる事業活動が活発に行われている。

現状・課題

（1）林業適地への集中投資

- ① 林業適地の拡大・新たな森の工場の拡大

ア 林業適地の設定面積
112,000ha（目標）→ 105,828ha（R6）
イ 森の工場の承認面積
91,141ha（目標）→ 92,246ha（R6）
⇒ 林業適地や森の工場は拡大しているものの、さらなる原木生産、再造林につなげることが必要

（2）林業収支のプラス転換

- ① 林地残材の利用拡大
ア 林地残材搬出機械の導入支援（R6：6件）
⇒ 林地残材搬出はコスト高であり、各バイオマス発電所近隣の集荷が中心。より広範囲からの集荷が必要
- ② 再造林の推進に向けた連携体制の強化
ア 高知県再造林推進会議（総会、幹事会2回、部会3回）
において、県全域での再造林基金の取り組みを決定
⇒ 事業者の協力体制の構築や具体的な資金の拠出方法の調整が必要

森の工場の原木生産量

単位：m³

	R4(出発点)	R5(現状)	R7	R9
目標	—	—	20.7万	26.5万
実績	12.6万	13.7万	—	—

目標値

民有林の再造林面積

単位：ha

	R4(出発点)	R5(現状)	R7	R9
目標	—	—	552	690
実績	342	294	—	—

令和7年度の取り組み

（1）林業適地への集中投資

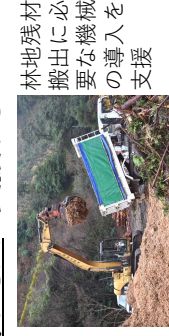
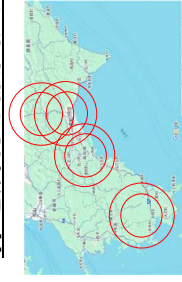
- ① 低コスト造林の実証を行うモデル事業地の設定（森の工場）
低コスト造林（伐採～再造林）を実践し、施業データ等の収集・分析などを行う**新たな森の工場のモデル地区を支援**する（効果的な方法を他の森の工場へ横展開） KPI：モデル事業地 5カ所



皆伐と再造林のセット化（一貫作業）の実証など

（2）林業収支のプラス転換

- ① 林地残材活用に向けた支援内容の見直し
林地残材搬出への支援を見直し、より広範囲からの集荷を促進する
林地残材の搬出に必要な機械の導入を支援する



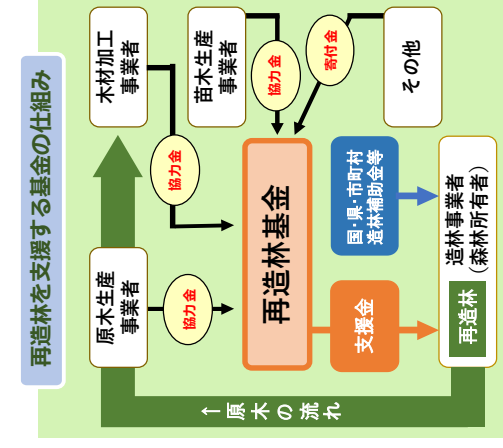
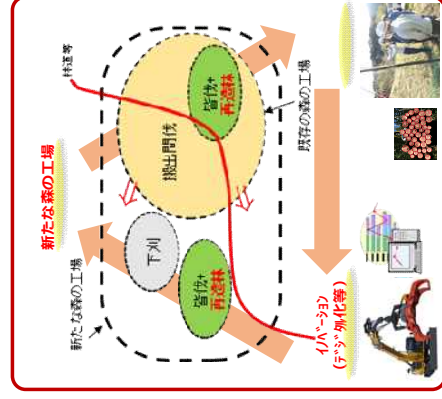
支援の拡充により、広範囲からの集荷の導入を促進

林地残材搬出に必要な機械の導入を支援

- ② 新たに開始する民間基金による再造林支援の円滑な運営
県全域での再造林基金の設置に向けた**制度設計や合意形成への協力、円滑な運営に向けた支援の拡充**



高知県再造林推進会議（R5.10月設置）



5期計画（令和9年度）の目指す姿

○原木を安定的に調達する体制が整備され、非住宅分野をはじめ新たな需要への高品質な製材品の供給力が向上している。

現状・課題

(1) 大径材の利用促進

①大径材の増加が見込まれる中、その利用を進めるための戦略を策定

- ア 大径材利用戦略策定会議の設置・開催
- イ 資源量調査
- ウ 加工・流通実態調査
(県内製材事業者 26者・原木市場 3者)
- エ マーケット調査
(県内外の製材品取扱事業者 26者)
- オ 大径材利用セミナーの開催(1回)

⇒大径材の特性を踏まえた乾燥技術、
製材手法の確立や製品の開発を進める
ことが必要

(2) 需要に応じた製材品の供給体制の整備

①製材業は他の製造業と比較して労災の発生率が4.4倍と高く、安全対策への取り組みが必要
(労働安全研修 5工場)

⇒製材業への外国人材の活用など、多様な
担い手確保のため、労働環境の整備が必要
(木材産業分野 外国人労働者数 10名)

乾燥材の出荷量

目標値

単位：千m ³ JAS機械等級区分構造材の出荷量					単位：千m ³		
	R4 (出発点)	R5 (現状)	R7	R9	R4 (出発点)	R5 (現状)	R7
目標	-	-	109	126	-	-	15
実績	87	110	-	-	11	12	-

令和7年度の取り組み

(1) 大径材の利用促進

①将来的な施設整備や製品開発の方向性を示す戦略の更新

- ア 資源量調査について路網等の条件を考慮した追加調査
- イ 素材生産業者の大径材への対応状況調査
- ウ 大径材加工技術の普及
製材事業者を対象として乾燥技術や製材技術の向上に向けた研修会を開催

②大径材加工施設の整備への支援

ア 大径材の加工力強化に資する施設整備について重点支援を行う

KPI：大径材加工施設の整備 1者



大径材対応
ツイン帯鋸盤



原木選別機



大型バーカー
(樹皮むき機)



大径材用
ツインバンドソー

※整備施設の一部
(林野庁資料)

(2) 需要に応じた製材品の供給体制の整備

①製材工場の環境整備

- ア 製材工場の労働安全性向上のための環境整備や人材育成を支援する
- イ 外国人等就業者向けの住環境の整備等を支援する

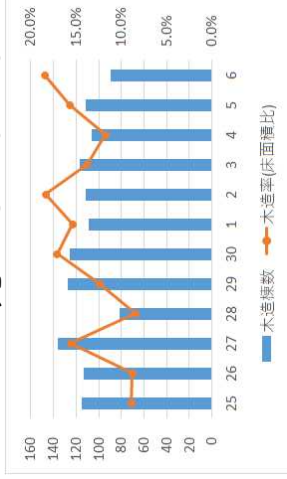
KPI：労働環境整備 4者

5期計画（令和9年度）の目指す姿

- 住宅への木材利用に加え、非住宅建築物の木造化・木質化に向けた取り組みを強化することにより県産材利用が拡大している。

現状・課題

- (1) 環境に配慮した新たな木材流通の促進**
 ①SDGsをはじめ環境への関心が高まる中、持続可能性が担保された木材の活用を望む企業が増加。再造林の実施など環境に配慮した森林由来の木材であることの情報を管理・提供する仕組みが必要
- (2) 非住宅建築物等への木材利用の拡大**
 ①環境不動産の制度周知や事業者への技術支援を実施し、1号物件が実現
 ⇒モデル的な環境不動産の事例の増加が必要
- ②県内では、技術研修会の開催や設計支援等によりCLT建築物は増加している一方で、非住宅建築物の木造率は低位
 ⇒非住宅建築物に対する木造化の提案機会を増加させることが必要
- ア 県内CLT建築物の棟数
 R元：28棟→R6：57棟
- イ 県内非住宅建築物の木造率
 R元：15.4%→R6：18.5%



目標値

県外製品市場等への県産製材材の出荷量				県内における非住宅木造建築物の棟数(年間)			
単位：千㎡				単位：棟			
R4推計 (出発点・現状)	R7	R9		R4 (出発点)	R6 (現状)	R7	R9
目 標	117	121		-	-	113	121
実 績	103	-		106	89	-	-

令和7年度の取り組み

(1) 環境に配慮した新たな木材流通の促進

- 拡** ①非住宅建築物等に供給する県産材に新たな価値を創出するため、環境に配慮した森林由来の土佐材を認証する制度を構築
- ・木材を認証する仕組みの構築に加え、木材供給に関わる各段階の事業者（製材・加工・販売）が認証木材の取扱情報等を確認できる情報管理システムを開発

(2) 非住宅建築物等への木材利用の拡大

- 拡** ①環境不動産認定制度の見直し及び1号物件を活用したPRの強化
- ・環境不動産の認定基準の見直しにより、環境不動産建築を促進させる。



環境不動産 1号物件イメージ図

- 拡** ②非住宅建築物等の木造化・木質化促進に向け相談窓口業務の強化
- ・住宅及び非住宅建築物の木材利用を拡大するため、木材普及推進協会が行う木材利用総合窓口業務への支援を強化（大型商業施設内への設置、週5日から週7日に拡充）
 KPI：設計費への補助 6件、木材購入費への補助 5件
- 拡** ③万博でつながった非住宅建築向け構造材のサプライチェーンを活用した供給・提案体制の強化や友好・姉妹都市関係にある県外自治体への営業活動の強化
- 拡** ④新たに県産材を海外の有望なエリアへ輸出するためのテストマーケティングを支援

5期計画（令和9年度）の目指す姿

○デジタル化された森林情報の活用をはじめスマート林業を推進し、若者や女性等の多様な人材がいきいきと活躍している。

目標値

林業就業者数（年度末現在）					新規就業者数（年間）				
単位：人					単位：人				
	R3(出発点)	R5(現状)	R7	R9		R3(出発点)	R5(現状)	R7	R9
目標	-	-	1,690	1,690	目標	-	-	185	200
実績	1,593	1,600	-	-	実績	142	68	-	-

現状・課題

（1）ターゲットマーケティングによる取り組みの強化

①「こちふオレストスクール」への、女性の参加者数は増加しているものの、全体の参加者数は前年度と同程度となっている。

（R5:52人(うち女性12人)

→R6:50人(うち女性22人)）

⇒林業就業に係るイベント参加者や相談者の増加に向けた情報発信の強化が必要

（2）高度な技術を有する人材の育成

①林業大学校における若者（特に女性）の研修生から研修環境の改善について声があがっている。

⇒若者（特に女性）をターゲットにした研修環境改善が必要

（3）魅力ある職場づくりの推進

①ドローン等の女性が扱いやすい機器の活用に向けた研修会の開催

⇒スマート林業の取り組み支援の対象を拡大するなど、更なる普及・定着につなげることが必要

②若者や女性などが働きやすい職場づくり等について学ぶ経営セミナーの開催や環境整備への支援

⇒若者等のニーズにあった取り組みの更なる推進が必要

令和7年度の取り組み

（1）ターゲットマーケティングによる取り組みの強化

新 ①新たに林業就業と趣味移住をテーマにした情報発信の実施

・趣味の専門誌で情報発信

趣味を楽しみながら林業に就業するモデルケースを掲載（高知で林業の強み）
・自然が近い（趣味のスポットが近い）
・フラيبパートの時間が確保しやすい

イベント参加・相談者の増加

+

趣味移住の要素を取り入れる等、イベントの内容を見直し（イベント見直し）
・趣味移住の林業就業者をゲストに招聘
・市町村の移住施策との連携

（2）高度な技術を有する人材の育成

新 ①若者（特に女性）をターゲットにした研修環境の改善

・女性等の入校生からの声に対応するため、林業大学校にトイレカーを導入

・導入後は改善モデルとして林業事業体に普及



（3）魅力ある職場づくりの推進

拡 ①スマート林業に係る研修の充実や取り組み支援の強化

・機器や技術の最新の活用方法を学べる研修会の開催
・労務や生産性を管理するシステム等の導入を支援するため、補助メニューを拡充

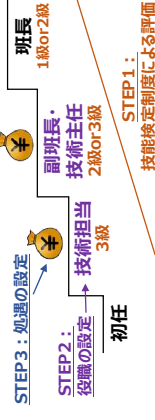


拡 ②若者等のニーズに対応した就業環境改善の支援強化

KPI：労働環境改善に取り組む林業事業体数 35事業体

・若者等が働きやすい職場づくりに向けた取組を支援するため、補助メニューを拡充（追加する補助メニュー）

就業者向けの住環境の整備、キャリアパス導入、トイレカー導入、外国人材の受入体制整備



技能評価によるキャリアパスの導入

就業者向けの空き家改修

STEP1: 技能検定制度による評価

